Library News
山口大学附属図書館報
ISSN 0388-5569
VOL.2 NO.1
1981.2

目次

図書館とサービス　肱黒和俊……1
在山地区研究室貸出図書の点検作業の現況……2
≪資料紹介≫
米国議会経済合同委員会報告書
U.S.Congress, Joint Economic Committee: Publications 1950—1979, 479 titles, G.P.O.……3
学術雑誌総合目録
人文・社会科学欧文編 1980年版……3
特殊文庫紹介
若月紫蘭文庫……3
お知らせ……4
日誌……4

図書館とサービス

肱黒和俊

昭和23，4年頃のことであったろうか。論文執筆にあたってある本がどうしても必要となった。まだ新制大学発足以前のことであり，現在のように大学相互間の図書利用のシステムもなく，わざわざ本一冊のために上京し，上野の図書館に出かけた。そして一日目は首尾よく目指す本を借り出し，一日中館内で読みふけった。そして二日目は，この日ですませてしまおうと早目に出かけ借出し手続きをとったが，該当書物は書架になく，貸出中とのことで，やむなく他の書物にした。三日目は開館前に図書館に着くよう早朝宿を出て，開館と同時に入館，目指す本の借出し手続きをとったところその日はあった。そして閉館まで読んだが，まだ終らず翌日来ることにして帰えった。

さて，四日目であるが，この日も早く行くにこしたことはないと早く出かけたにもかかわらず貸出中でないという。これでは一日おきにあったりなかったりで，あまりにも規則的すぎるので，よく調べてもらったところ，結局，私が読んだ日に遅く返すため，翌日早くはまだ書架に本が返っていないことがわかり，その日はその書物の所在がわかり借り出すことができた。もし二日目に書架だけでなく前日の返還分についても調べてくれていたならば，二日目の1日を無駄に過すことはなかったわけである。当時としてはとにかく目指す本を利用することができたという気持で，何とも感じなかったが，改めて考えてみると，もう少し丁寧に探してくれてもよかったのではないかと思う。

ところで，図書館とくに大学附属図書館の提供するサービスの問題であるが，その重点は，教官に対しては大型および共通的図書・資料を収集，保管して教官の利用に供し，また内外の諸機関の所蔵する文献について探索し，複写などの方法によって教官の必要とする資料を入手提供することにあり，学生に対しては，学習上必要な文献および情報とそれを利用するための良い場所および環境を提供することであろう。なお，この外に文献の入手および整理の迅速性ということが要求されることはいうまでもない。

附属図書館の果たさなければならないこのような固有の役割とくに教官に対するサービスの面を考える場合，必然的に文献の集中化ということが問題となってくるが，附属図書館への文献の集中化ということは，特定の文献に限定してこれを考えなければならないものといえよう。すなわち，図書館が所蔵していて共同の利用に供する方がその文献の利用という点でより効果的であると考えられるものについては，集中化による本館所蔵が望ましいということになるのである。この点で雑誌の所蔵，保管をどのようにするかといったことが問題となる。雑誌に関しては，少なくとも教官個人研究室への長期分散化ということはさけなければならないだろう。数年前，私は本学の図書館に所蔵されていない雑誌につい

て，学会出張のついでに一橋大学の図書館をたずねコピーを依頼したことがあるが，十分も待つか待たないうちに必要な箇所のコピーができて手渡された。その時のうれしさは果たしてあるだろうかと心配していただけにひとしおであった。

附属図書館のサービス業務としてこれからますます重要になると考えられる業務は，いわゆる参考係の業務であろう。附属図書館への分館の統合については確かにメリットとデメリットがあるが，統合のもたらした大きなメリットの一つは参考業務を担当する部門ができ，不十分ながら参考業務によるサービスの提供がなされはじめたということであろう。参考業務部門の充実こそ大学附属図書館にとってのこれからの重要な課題であるといえよう。

次に，学生に対する附属図書館のサービス問題について若干ふれておきたい。吉田キャンパスに附属図書館が新設される前の分館時代を考えてみると，一応整っていると考えられていた経済学部分館の場合と比較してみても，読書の場所と環境の提供といった点では雲泥の差があるといえよう。また，学習上必要な文献の提供といった点も分館時代よりはかなりよくなっているといえるが，より一層の充実を望むためには学部の協力も必要となるであろう。

ところで，附属図書館のサービスの問題は予算の問題と切りはなしてこれを考えることはできないが，本学附属図書館の予算額および予算の仕組みについては云うべきことが多い。永年図書館運営委員をしていて感じてきたことである。吉田地区に本館が新設された当時に端を発する暫定的予算編成方法の名残を早く払拭して，附属図書館の設備および仕事量に基づいて費目別必要額を洗い直すといった観点からの抜本的改革による新しい附属図書館予算制度の確立が切に望まれる。　　（経済学部教授）

在山地区研究室貸出図書の点検作業の現況

在山地区研究室貸出図書の点検は，これまで退官・転任教官のある研究室についてだけ，図書館職員が当該研究室に出向いて点検していたのであるが，昭和54年度から退官・転任教官のある研究室の図書点検とは別に，山口キャンパス全部局各研究室について当該研究室の教官の協力を得て，研究室貸出図書の点検・確認作業を実施することになった。

この点検，確認作業は人文学部からはじめられることになった。たまたま人文学部は新校舎が落成，これに伴う移転作業とも重って，人文学部の関係教官には大変ご迷惑なことであったと思われたが，ご協力をお願いして実施された。その結果作成した第一次未確認図書リストによる図書の未確認率は，各研究室によってかなりの差はあるが，平均では3.3％であった。

未確認図書リスト（第一次）の図書については，そのあとも引き続き本館書庫内の所在調査等を行い，近く未確認図書リスト（第二次）を作成して人文学部の関係教官に再度調査を依頼して，更に不明図書の減少をはかることになっている。

また，昭和55年度は，おなじように理学部と教養部に調査を依頼し，両学部の未確認図書リストを作成中である。

今度の研究室貸出図書の調査に伴って，貸出帳簿のカード化の作業も行っている。現在までの人文・理学両学部及び教養部のカード化すべき図書冊数は約76,000冊で，これが完成すれば，図書の原簿となるべき典拠がカードでも統一されることとなり，今後の研究室貸出図書事務の遂行に便利になることと思われる。

人文・理学両学部及び教養部の調査に当っては，教養部の図書は旧文理学部から分割された図書が多く，その後人文学部と理学部と分れた関係上，貸出簿または貸出カードと当該学部所在図書との照合は，かなりの困難が予測されたのであるが，関係教官のご協力により所定の調査が進められ，所期の目的が果されつつあることを報告します。

なお，不明図書リスト（第二次）が完成した後も，絶えず不明図書の追跡調査を行ない，不明図書を皆無にするよう努めなければならないので，図書館職員はもちろん，関係教官のご理解とご協力をお願いしてこの作業を進めていきたい。

また現在までに未実施の教育学部，農学部及び経済学部については，昭和56年度以降に調査を依頼することになるので，ご協力方をお願いします。

≪資料紹介≫

米国議会経済合同委員会報告書

U. S. Congress, Joint Economic Committee : Publications
1950－1979, 479 titles, G. P. O.

此の度，文部省の昭和55年度図書資料（大型コレクション）収集計画の一貫として，上記資料が指定され，購入予算が配付された。

図書資料（大型コレクション）は，1セット当りの購入価格が100万円以上の学術研究上緊急に必要な図書資料で，学内での予算措置が困難なもの等の条件を満たすものとなっており，本学においては昨年度に続いて予算配付を受けることになりました。

「米国議会経済合同委員会報告書」は第二次大戦後より今日にいたる米国議会の上下両院経済合同委員会が主催した聴聞会でのスタッフレポート，記録，証言等やその他の出版物を集めたものである。周知のように，立法府の権限の強いアメリカでは法案の審議にあたって背景説明のための詳細なスタッフレポートが提出され，また重要問題に関しては両院の各種委員会において公聴会が頻繁に開催され，しかもそれらが出版物となって公表される（近くはロッキード事件に関する多国籍企業小委員会の公聴会や日米自動車摩擦に関する貿易小委員会が著名である）。 上記の両院経済合同委員会はそのなかでも有名であり，ここで取り上げられた主題をみても，物価，雇用，金融，南北問題，東西関係，環境，資源，貿易，多国籍企業，財政，地域　開発，軍事，農業，技術革新など現代経済の主要問題をことごとく網羅している。また内容の点でもアメリカ議会のもっている調査能力や予算措置，さらには証言の信頼性などからいっても文字通り第一級の資料的価値をもつと同時に，生きた経済問題の指針としての意義をもつものである。これによって今日のアメリカ経済（国内，国際ともに）の全般的な研究がより一層深まるとともに，各国経済の研究にとってもよい援助資料となると思われる。現代経済に関する必須な文献としてこの資料を利用されることが大いに期待される。　　（経済学部助教授　朝日　稔）

＜「学術雑誌総合目録　人文・社会科学欧文編　1980年版」＞

このたび文部省は，この人文・社会科学欧文編のデータを，昭和53年8月1日現在で全国の大学・研究機関等355機関の協力を得て収集し，データ処理は東京大学情報図書館学研究センターで，電算機処理し刊行したものである。

発売元：（株）紀伊国屋書店

本版の収録機関の数は，国，公，私立大学（310），各省庁所轄研究機関，地方公共団体，公社，法人，学協会（45）計355機関で，収録誌数は，36,881誌である。

この目録刊行のため収集されたデータの調査期間は，1978年8月1日現在である。

所蔵データの表示については，所属は大学においては部局（図書館・学部・研究所）まで表示され，所蔵表示は巻単位とし，号は表示していない。

これらを相互利用する際の複写窓口の正式名称および所在地は，巻末の「所蔵機関・箇所・部局名略称及び所在地一覧」に掲げてあります。

（「学術雑誌総会目録　人文・社会科学欧文編1980年版」による。）

本目録及び予備版は，参考相談室に備えてあります。

特殊文庫紹介

若月紫蘭文庫　　若月保治（紫蘭）　1879 － 1962

本文庫は，山口県が本学の施設充実に協力され，その一環として昭和27年4月に，有名なる古浄瑠璃の研究者若月紫蘭（保治）氏所蔵の図書を一括購入して，大学に寄贈され，昭和32年2月に特殊文庫として，附属図書館において別置保管されている。若月紫蘭文庫目録は，昭和36年12月発行。61頁

蔵書数は和書712冊，洋書9冊，レコード10枚。

本文庫の内容は，若月氏の研究の中心である演劇関係のもので，若月氏その他の書写本，古写本，新古の板本，複製本などが殆んど大部分を占めている。

次にあげるものは，その一つで「近世初期国劇の研究」に画期的な新資料「松平大和守日記（抄）を翻刻紹介した原資料である。

松平大和守日記（抄）　明暦4年 ～ 元禄8年
若月紫蘭ペン写　昭和15年（1940）　149丁　20㎝　第1回写本　原本は焼失
松平大和守日記（抄）　上・下巻
若月紫蘭夫妻ペン写　昭和17年（1942）　2冊　20㎝　第2回写本
「近世初期国劇の研究」　若月紫蘭著（青磁社刊）掲載の原稿

第1回写本は1冊で，もともと発表するつもりのない，氏の手控のようなものであったため，判読しにくい字は，原日記の書体に似せて書写してあるので，却って活字本で不審と思われる箇所を，この写本によって確かめることができる便宜がある。

第2回写本は2冊で，「近世初期国劇の研究」所収の原稿として作られたので，行移りなど原日記の体裁を最もよく窺うことができる。　（近世文芸　6　小野　晋記の抜粋）

☆ 本館からのお知らせ ☆

本館図書整理のための休館及び図書貸出期間の変更を，下記のとおり実施します。

1. 休館日 ： 昭和56年3月20日（金）～ 3月31日（火）
2. 図書貸出期間の変更

(1) 在校生に対する貸出

	貸出期間	返納期限
図書	昭和56年3月6日～3月19日	昭和56年4月11日
雑誌	昭和56年3月17日～3月19日	昭和56年4月9日

(2) 卒業又は修了予定者に対する貸出

	貸出期限	返納期限
図書	昭和56年2月28日	昭和56年3月14日
雑誌		昭和56年3月3日

昭和55年度時間外開館は，2月28日（土）で終了。
昭和56年度は，4月9日（木）から実施の予定。

工学部分館では来る4月1日から館外利用冊数，期間等を下記の通り変更します。

	冊数			期間	
	開架室単行書	雑誌	書庫単行書を含め最大限	単行書	雑誌
職員及び名誉教授	3冊まで	単行書を含め10冊まで	10冊まで	2週間	3日以内
院生及び専攻科学生	3 〃	3冊まで	10 〃	2 〃	3 〃
学部学生及び短大生	2 〃	1 〃	3 〃	2 〃	3 〃

日　誌

10月29～30日（水～木）　昭和55年度国立大学図書館事務部長会議（於熊本大学）
11月14日（金）　第34回附属図書館運営委員会（於附属図書館会議室）
11月19～21日（水～金）　第21回中国四国地区大学図書館職員研究集会（於島根大学）
11月21日（金）　第3回本館図書委員会（於附属図書館会議室）
11月26日（水）　中国社会科学院世界経済研究所研究室主任載有振氏来館
11月27～28日（木～金）　昭和55年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会及び係長会(於高知大学)

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田　電話（0839）22－6111　内線788